

# 福祉 × デザイン × ブランディング

ダイバーシティ構想で県内福祉事業所50か所・  
企業200社と提携。売上6,500万円をめざす

≡(★注目ポイント★)≡



1 北陸新幹線開通に伴い、首都圏マーケットを視野に営業展開。株式会社IGA※各店舗に置く縫製による商品を開発

2 営業努力により、公的補助金なしで自立した運営を展開。民需開発をターゲットに商品を買って、売上向上に奮闘中

3 国・福井県の若年無就業者向け就労支援を実施する若者サポートステーション運営など、経営の多角化。相談・実習など年間60人を社会復帰

社会福祉法人  
**福井県セルブ**  
http://www.e-selp.or.jp  
(福井県福井市)

デザイナー、  
総合プロデューサー、  
個人事業主

●基本データ(令和3(2021)年11月現在)

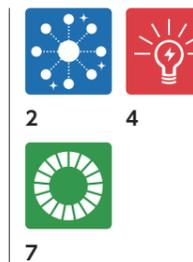
- 所在地 〒910-0028 福井県福井市学園3-7-5
- TEL 0776-29-2234
- 開設年 平成18(2006)年
- 職員数 23人



概要

福井県セルブは令和元(2019)年度より、福井県の委託事業として、障がい者就労支援施設・事業所の商品力強化や販路拡大、民間企業や社会の認知改革のためにデザイナーらと協働し、セルブ商品の品質向上をはかるブランド化事業に取り組んでいます。

SELP Vision 2030



構成員と役割

本事業に携わる  
職員の人数

3人

商品開発に参加、販路の拡大、権利、経理、  
ECサイトの運営とSNS広報、配送

プロジェクト  
チーム構成員

民間企業のデザイナー 1社  
総合プロデューサー 1社(事務局も担当)

ブランド化・  
デザインの提供先

ぴーぷるファン、ハートオブマインド、ワークハウス、  
有限会社C・ネットサービス、ワークかすみ



福祉に、アクションをーフクシヨン!

※ 株式会社IGA(アイジーイー)/レディースカジュアルウェア専門店チェーン。福井県武生市で創業

## 開始までの経緯

令和元年度に福井県より障がい者就労に関する事業の受託を打診された福井県セルプ。委託事業は施設・事業所の商品力強化や販路拡大、「地域の企業や消費者と障がい者との垣根を壊す」ことを目的とする内容でした。福井県セルプは事業に取り組むことを決めました。

総合プロデューサーとなる連携先は福井県の紹介があり、さらに、福井県内の障がい者就労支援事業所と業務連携実績があるデザイナーがひとりいます。受託事業の事務局を担当するのは、総合プロデューサーの会社の方です。

## 具体的な取り組み

福井県セルプは受託事業に取り組むにあたり、福井県内すべての事業所に事業内容を周知・募集して、参加意向をうかがいました。応募があった事業所を訪問して、商品の素材や内容、取り組みに対するモチベーションを確認し、この事業のプロジェクトチームが事業所を選出しました。

参加事業所を決定した後は、2～3週間に一度程度の事業所訪問、電子メールやオンライン会議用アプリケーションZoomを活用した情報交換・打ち合わせを開催しながら、約半年～1年をかけて商品を開発します。

ブランド化の試みは新商品の開発に加え、既存商品のリメイクにも広げました。既存商品のデザインを行う場合は、販売するターゲットの設定から、原価率等の販売に関するコストの見直しも指導しているそうです。

福井県セルプは商品開発が終了した後も、顧客の声をフィードバックし、次の販売促進につなげるために、利用者と施設・事業所を支援しています。



フクション！フェス、盛況です

## 事業で発生する経費

人件費・交通費・印刷費・備品購入などが事業遂行にかかる経費です。開始当初は福井県の受託事業であり、同県の補助金よりデザイナー費用が捻出されていました。

福井県セルプは令和元年度以降、補助金を受けずにこの事業を継続しています。

## 工夫していること、心がけていること

効率的な  
連絡調整の  
ための取組



頻繁な情報交換や打ち合わせを行う必要があるため、Zoomなどのアプリケーションを利用して効率的な情報交換を心がけているそうです。

ブランド化に  
向けた  
工夫



福井県セルプはブランド化の工夫として、流通に寄せやすい原価率であること、地元素材を使うことを心がけています。販売ターゲットを絞った戦略を立て、ターゲットに見合った価格設定とパッケージデザインを工夫したといいます。



より印象的なデザインに一新した商品

課題と対応

**課題 販路の拡大** → **対応** ブランド化した商品は非常に好評で売り上げが伸びていますが、新型コロナウイルスのまん延や長引く感染症対策の影響により、商品の販売機会は減少しました。そこで福井県セルプはインターネット販売にも力を入れることとし、ホームページを作成しました。

**課題 意識の差の調整** → **対応** デザイナーらと事業所の職員との間に商品開発に対する意識の差が見られ、その調整に苦労があるといいます。例えば、商品の原価率や人件費など、商品の製造にかかるコストに向ける意識が問題となることは少なくありません。

福井県セルプは、事業所の職員や利用者の思いを尊重しながら売れる商品を作ることが必要であると受け止め、ブランド化のための協議には時間をかけて取り組んでいます。

**課題 事業所の対応の限界** → **対応** デザインを一新しブランド化した商品が売れるようになって増産体制を整えることが難しい事業所、生産できる商品数に限りがあり商品開発にも限界がある事業所等、工賃向上になかなかつながらない現実問題もあるようです。



食べ方をイメージできる 新しさにワクワク

反応・効果

**職員の反応・効果** 福井県セルプのブランド化事業に応募した事業所の職員より挙げた声「ターゲットを絞ったデザイン戦略や商品コンセプトなど、学ぶことがたくさんあった」「今までその発想はなかった」「今後の商品開発、販売方法に活かしたい」

**購入者の反応・効果** たくさんのお褒めの言葉がありました。「パッケージが素敵、きれい」「美味しいのでリピーターになった」

★ 展望・課題



ブランド化した商品は道の駅で販売し、評判がよく売り上げが上向いていました。そこへ新型コロナウイルスのまん延と感染予防、感染症拡大防止措置を取らなければならない「コロナ禍」に遭いました。

コロナ禍のもとで販売機会が減少した福井県セルプは、インターネット販売などで地元に限らない販路拡大をめざしたいと考えました。また、販路拡大後には事業所の生産力の限界も考慮しなければなりません。するとそれは事業所の生産力向上が課題となります。

そして現在はインターネット販売に限らず県外販路の拡大を実行中です。

福井県セルプのSDGsへの取り組み

福井県セルプは、福井県のSDGsパートナー企業に登録。福井県のSDGsピンバッジ製作や廃棄するものなどを活用した商品の開発、環境に配慮した商品の開発・販売強化に取り組み、社会の持続可能性を追求する主体の一員です。

